





## マウス・ラット等小動物実験用簡易吸入麻醉装置を整備。

ご要望が多かった、イソフルラン用麻醉気化器を2階、4階の実験室に整備しました。マウス用導入麻醉ボックスもあわせて整備しました（ラット用ボックスにつきましては、ご要望があれば導入を検討します）。

なお、イソフルラン、マスク、余剰麻醉吸着フィルターなどの消耗品につきましては、利用者ご自身でご用意をお願いします。



動物資源部門では、利用者の利便性の向上を目指して共同利用機器の充実を図っています。従来は各研究者が部門に持ち込んでいた顕微鏡、体重計、麻醉器なども部門として徐々に整備していく計画です。これらにつきましては鹿田施設利用者であれば、特に利用料金の設定はいたしません。

また、各研究室で不要になった機器がございましたら、共同利用機器として運用させて頂きますので、動物資源部門にお譲り頂きますよう、職員までお声掛け頂けましたら幸いです。



(写真)

(左) マウス・ラット等小動物実験用簡易吸入麻醉装置 NARCOBIT-E(II型)

(右) マウス用導入麻醉ボックス



## 適切な飼育管理、実験実施のおねがい。

- 利用者研修等でもお願いしていますが、動物（特にマウス）の適切な飼育管理の徹底をお願いします。動物資源部門では、1ケージあたりの収容匹数をマウス5匹まで、ラット2匹までと規定しています。これを超える匹数で飼育することは動物福祉上問題がありますので、絶対にしないようお願いいたします。
- 繁殖中のものについても、過密飼育にならないよう、多くても繁殖親は1ケージあたり♀2匹、♂1匹の計3匹程度で行ってください（マウスの場合）。
- 動物の状態を少なくとも週に1度は確かめに来るようにしてください。※確かめるだけではダメです！新生仔の出生日の記録、健康状態のチェック等、必要な管理はこまめに行ってください。
- 実験に使用する予定のない動物の繁殖はしないでください。
- 実験計画書に記載した人道的エンドポイントは順守してください。例えば、計画書に記載された腫瘍の直径を超える、体重の減少を超えるもの等についてはただちに実験を停止する必要があります。

上記について、守れない利用者につきましては、専任教員（施設獣医師）の判断で実験を一時停止、動物実験委員会より当該動物実験の中止が勧告される場合があります。くれぐれもご注意ください。「忙しいから」は理由になりません！

適切な動物実験が実施されるよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。